

平成23年度 桂高校 学力向上フロンティア校 事業計画 一覧

「桂 学びプランⅡ」～中高の接続及び文章を書かせる指導を生かした学習の実施、及び家庭学習習慣の確立による基礎学力の H23. 2. 7版

主な取組	課題背景	課題に対する具体的対応策	主な担当分掌	目標
(1)「中学校での学習内容」を定着させ、「高校での学習方法」を習得させる。	●英・国・数で中学校時代の学習に不安を感じる…55% ●英・国・数で学習の方法がわからない+まじめだが成績が伸びない…41%	○「地元中学校との授業参観交流」の実施(2月、6月) ○「中学校振り返り学習」の実施(1年生) ○「学習オリエンテーション」の実施(入学時1年生) ○各教科「教科オリエンテーション」の実施(全教科予習、復習方法、ノートの取り方など)	教科企画	・計画通り実施する。 ・学習状況調査「学習の方法がわからない」+「まじめだが学習成績が伸びない」生徒の割合を41%から35%に減らす。
(2)基礎学力や人間関係能力の基盤となる「ことばの力」をあらゆる機会に計画的・継続的に育成する。	●人の気持ちがわからない生徒の増加 ●人権学習などの感想文が3行しか書けない生徒の存在 ●志望動機が書けない、面接でしゃべれない生徒の増加 ●各教科の基礎学力の未定着	○全教科で「文章を書かせる場面」をシラバスにあらかじめ設定し、年間を通して計画的に実施する。(レポート作成、観察実験記録、資料の分析、まとめ、感想など) ○学校行事などの特別活動において、まとめや感想文など「文章を書かせる場面」をあらかじめ設定し、年間を通し計画的に実施する。 ○図書館ではさまざまな教育活動に役立つ資料や、幅広い教養・豊かな心を育む図書幅広く収集・提供する。また、広報の発行や生徒図書委員会活動による図書館行事などを通じて読書活動を推進し、言語能力の向上に役立てる。舞台芸術の団体鑑賞を実施し豊かな情操を育む。 ○部活動において活動日誌や作戦ノートなど「考えを言葉によって記録させ、競技会や発表会、試合で生かせるようにする。	全教職員企画図書	・計画通り実施する。(あらゆる機会を通し文章を書かせる) ・府高模試国語の偏差値を前年度より向上させ得る。
(3)「計画的な家庭学習」の実施と家庭学習習慣の確立を図り、家庭学習時間を増やし基礎学力を定着させる。	●家庭学習時間0hの生徒は、依然として3割程度存在 ●学習状況の好転に兆しは見えるが、学力状況の改善には至らない状況	○「学習強化週間」を各考查前2週間、年間5回、10週間実施する。 ○英語の基礎力向上のため、1年生1学期中間まで中学校の文法事項の総復習を実施する。 ○実用的な英語力向上と学習意欲を高めるため、G-TEC教材の活用とG-TEC全員受験を実施する。 ○生活習慣改善指導(実態調査・指導) ○家庭との連携(桂だより・進路だより)	学年進路教科企画保健	・強化週間の期間中の総学習時間を春一秋で20%増やす。 ・家庭学習時間0hの生徒を25%以内にする。 ・英語の府高模試偏差値を向上させる。
(4)部活動のリーダーが学習場面も含め学校全体をリードできる生徒集団をつくる。	●7割以上の加入率、部活動で実績を持つ生徒が多数存在、その生徒の教室の学習場面の影響は多大 ●部活動だけががんばる生徒への意識変革の必要性	○部活動参加生徒への顧問からの具体的なデータに基づく学習指導の実施(学習成績、学習強化週間学習時間、学習態度、課題提出状況など) ○短時間集中練習で近畿大会や全国大会に出場できる部活動を増やす。(バド・弓道・剣道・ラグビー・ハンド)	生徒教務企画	・部員の学習強化週間中学習時間を前年度より10%増加させる ・1週間17時間以内の短時間集中練習で全国・近畿大会に出場できる部活動を増やす。
(5)学習意欲の向上に繋がる「将来展望を持たせる学習」を行う。	●2年4月段階で希望進路未定が約2割、保護者と進路についてほとんど話したことがない生徒が3割存在	○龍谷大学との高大連携事業の実施 ア 大学での実験・実習(2年生Ⅱ類 2学期3回実施) イ 大学生の話を聞く会(1・2年生 2学期) ○環境教育の推進 ア 専門学科と地元小中学校との連携(小中学校への出前授業) イ 超節水・超軽量無覆土マットによる屋上緑化システム研究、キノア研究など ○1年次に「キャリアプランガイダンス」を実施する。	進路専科	・計画通り実施する。 ・進路意識調査項目を向上させる。 ・専門学科生の学力・学習状況を向上させる。
(6)教職員の指導力の向上を目指す。	●中学校の学習内容が未定着の生徒多数存在していることから中学校の実態や授業の様子を知って教科目標や授業計画を立案する必要性。 ●常に、本校生徒の学習状況・学力状況の変化をフィードバックし計画の微調整を行う必要性。	○「各教科の重点的な取組」と「学習状況調査項目」を一致させ、結果をフィードバックし学習計画や授業運営に生かす。(前年度の学習状況調査結果から重点項目を検討) ○「学力・学習状況分析結果」を基に、既存の会議の中で研修を行う。(各学期に2回以上) ○生徒による授業アンケートを分析し課題を明確にして、授業改善に結びつける。 ○地元中学校との授業参観交流を通し、生徒の実態や背景に即した指導力の向上を図る。	教科企画	・「学力・学習状況調査結果分析会議」を学期ごとに開催する。 ・「各教科重点的な取組状況」と合致する「学習状況調査項目」の数値の向上 ・授業アンケート結果で「授業の満足度」の向上及び「予習、復習を実施する」生徒の割合を増加させる。
(7)教職員の多忙感への配慮を行う。	●既存の組織の活性化、教科主任会議、教科会議	○既存の会議を含めた組織、既存の取組、既存のデータを活用した取組にする。 ○一部の教員の力だけではなく、教職員全員が少しの力を出すことで、生徒の学力向上に結びつく取組の工夫と達成感の共有		・教職員が元氣、活気のある職場にする。
取組体制	全校体制で実施	○教育企画部が各分掌、教科と連携しながら計画立案 ○部長会を「学力向上フロンティア推進会議」として位置づけ教科主任会議と連携するなど全校体制で進める		
経費概算	事業に必要な経費	・報償費<講師謝金等>・教材費<学習教材・実験費用等>・バス借上げ料 ・交流研究費<研究発表会・共同研究費>・視察費<先進校視察>		
評価計画	事業の成果の確認、修正改善	○学校経営計画の重点項目に位置付け、PDCAサイクルを通し評価改善する。 ○数値によるもの * 学習状況調査 * 実力テスト、模擬テストの結果 * 部活動加入率、実績 * 学校説明会参加者数 * 進路結果 * 桂高校入学志願状況 ○アンケートによるもの * 授業アンケート * 保護者による学校評価アンケート		
公表計画	全体像や流れ、事業概要の理解、学校の魅力としての広報	○学校関係者(外部)説明会、本校での説明会 ○学校便り、ホームページ ○学校紹介資料 ○新入生オリエンテーション ○PTA総会、学校評議員会		

学力向上フロンティア校事業計画

平成23年度府立高校「教育改革チャレンジプラン」支援事業「確かな学力向上プラン」
「学力向上フロンティア校支援事業」 京都府教育委員会

事業の目的

「府立高校が自ら設定したテーマに基づく先進的な取組を支援することにより、生徒1人ひとりの学力向上に資するとともに、府立高校全体の学力充実・向上に向けた取り組みのレベルアップをはかる。」<京都府教育委員会>